

営農経済部 稲作 特別情報

今年度は、管内 18 地区の定点圃場で病害虫、分けつ、草丈などの水稻生育状況調査を行い、毎週、病害虫の発生状況などの情報提供を行いますので、ご活用ください。

今年は、5月中旬に降雨が続き、そのまま例年になく早さで梅雨入り。その後、一時回復したものの、6月は曇りがちの天候が続いています。

このような気象条件下では、水温が上がらず、日照不足により光合成が制限され、そのため様々な障害が発生しています。

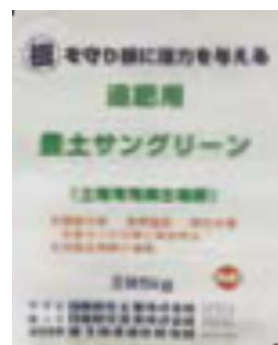


【低水温】

- ① 新根の発生が遅れ、活着が遅れる
- ② 有機物の分解が遅れ、有機酸等が根を痛める
⇒「豊土サングリーン」を施用(有機物の分解促進)
- ③ 藻の発生により、水温が上がらない
⇒「モゲトン粒剤」を散布



▲モゲトン



▲豊土サングリーン

【日照不足】

- ① 光合成量の低下により、新根や分けつの発生が抑制される
- ② 稲体の栄養状態の悪化により、下葉の黄変、除草剤への抵抗力が低下
- ③ 長雨のため、田を干すことができず、土壌の還元化が進み、養分吸収を阻害

【病害虫】

◆ トビイロウンカ (令和3年6月18日現在)

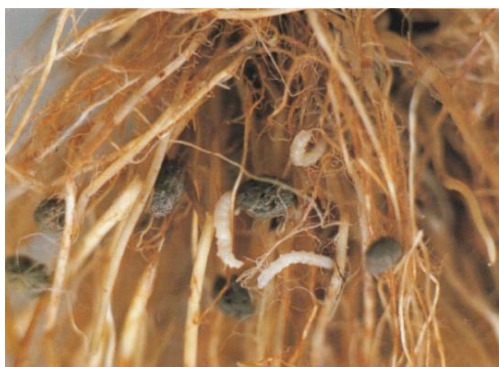
JA広島市管内では、**トビイロウンカの飛来は未確認。**

引き続き、今後の動向に注意し、株元を中心に観察を行ってください。

◆ イネミズゾウムシ

今年は**イネミズゾウムシの食害**が多くみられます。

成虫は、灰色で体長は約3mm程度、稲の葉を縦長に表皮を残した食害痕をつける。幼虫は、乳白色で稲の根を食害するので分けつが進まず生育不良になる(6月~7月)。



また、根に土まゆを作り、中で蛹となる。▲老齢幼虫(体長約8mm)と土まゆ ▲成虫(体長約3mm)と食痕



箱施用の殺虫剤を施用されている圃場では、
葉や茎に成虫がしがみついて死んでいるのでご確認ください。